

早生大豆「サチユタカ」の播種時期別適正播種密度					
[要約] 収量・品質およびコンバイン収穫適応性からみた早生大豆「サチユタカ」の適正播種密度は、条間を70cmとした場合、 <u>7月上旬</u> で9.5株/m ² (株間15cm)、 <u>7月下旬</u> では14.3株/m ² (株間10cm)である。					
担当部署	農産研究所・栽培部・作物栽培研究室			連絡先	092-924-2848
対象作目	大豆	専門項目	栽培	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

大豆の大規模生産においては、栽培管理作業を効率的に行うことが重要であるが、特に収穫時期については、収穫の遅れによって後作麦の播種作業が遅延するなどの問題が発生しており、「フクユタカ」より早生の品種が望まれている。そこで早生大豆「サチユタカ」を供試し、収穫時期の早進化および安定多収を目的とした各播種期に対応した適正播種密度を明らかにする。(要望機関名：農業振興課(H13))

[成果の内容・特徴]

1. サチユタカの開花期はいずれの播種期においても、フクユタカより耐倒伏性に優れ、播種密度を高めても倒伏程度は低く、また最下着莢高が高くなりコンバイン収穫適応性が高い(表1)。検査等級はいずれの区もフクユタカ並である。
2. 7月上旬播種において、条間を70cmを前提とした場合、サチユタカは9.5株/m² (株間15cm)にすると収量がフクユタカと同等か優れる(表1)。
3. 7月下旬播種では条間を70cmとした場合、9.5株/m² (株間15cm)に比べ14.3株/m² (株間10cm)で収量が高い(表1)。また、条間60cmで株間を15cmとした場合、条間70cmで株間10cmよりも収量が優れるが、最下着莢高が低くコンバイン収穫適応性が劣る(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. サチユタカの高品質安定多収栽培技術の指針として活用できる。
2. 必要種子量は10a当たり6～9kgである(百粒重を32gとした場合)。

[具体的データ]

表 1 播種時期別の播種密度と生育・収量 (平成 11 ~ 13 年)

場所	播種時期	品種系統	播種密度	条間株間	成熟期	主茎長	倒伏程度	最下着莢高	百粒重	子実重	標準比率	検査等級
			株/m ²	cm	月日	cm		cm	g	kg/a	%	
農産研究所	7.10	フクユタカ	7.1	70x20	11.5	71	2.9	14.4	29.9	35.3	100	3.5
		サチユタカ	7.1	70x20	10.28	46	1.0	14.0	34.9	35.3	100	3.0
	7.24	"	9.5	70x15	10.28	54	0.8	15.3	34.6	37.1	105	3.1
		フクユタカ	9.5	70x15	11.17	63	2.9	16.9	30.8	30.3	100	2.8
		サチユタカ	9.5	70x15	11.9	47	0.7	14.9	33.1	32.5	107	2.7
		"	14.3	70x10	11.9	56	0.7	16.4	32.6	32.4	107	2.3
豊前分場	7.10	フクユタカ	7.1	70x20	11.7	66	2.5	13.7	29.5	35.7	100	2.5
		サチユタカ	7.1	70x20	11.1	43	0.5	12.2	34.3	33.6	94	2.8
	7.25	"	9.5	70x15	11.2	47	0	12.5	34.1	41.1	115	2.5
		フクユタカ	9.5	70x15	11.15	58	1.2	13.3	30.4	32.6	100	3.0
		サチユタカ	9.5	70x15	11.7	43	0.5	10.9	33.2	33.0	101	3.6
		"	14.3	70x10	11.10	46	0	11.6	34.2	36.5	112	3.2
筑後分場	7.10	フクユタカ	7.1	70x20	11.5	56	1.0	(7.1)	26.2	32.6	100	2.0
		サチユタカ	7.1	70x20	10.30	37	0.5	(6.0)	29.5	28.8	88	1.6
	7.24	"	9.5	70x15	10.29	38	0.5	(6.1)	29.0	31.6	97	2.0
		フクユタカ	9.5	70x15	11.18	46	1.2	(6.8)	27.8	30.1	100	2.3
		サチユタカ	9.5	70x15	11.12	35	0.3	(4.9)	29.5	24.9	83	2.6
		"	14.3	70x10	11.12	36	0.3	(6.0)	27.4	26.5	88	3.0

- 注) 1. 倒伏程度は成熟期調査で0(無)~5(甚)。
 2. 標準比率は各場所、各播種期のフクユタカ収量との比較。
 3. 稔実粒数、百粒重、子実重は5.5mm以上の整粒で、百粒重及び子実重は水分15%に換算。
 4. 筑後分場の()は最下着莢節位高。

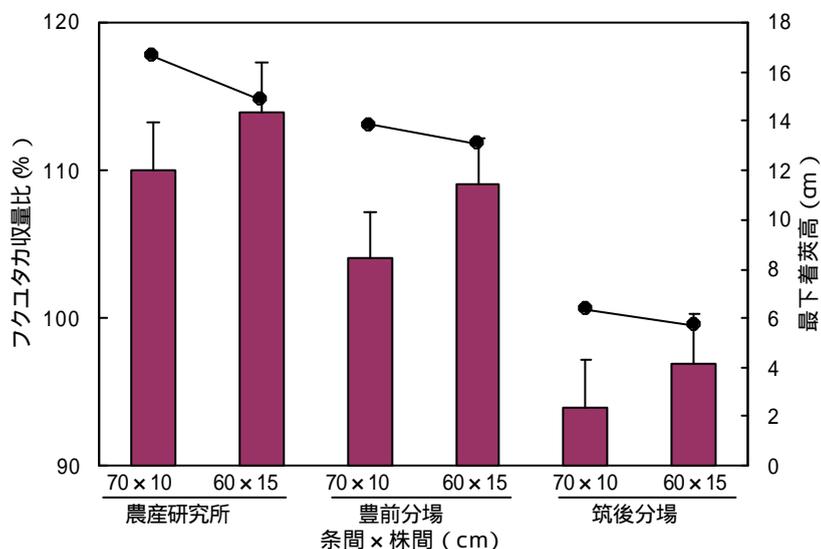


図 1 サチユタカの播種時期播種密度別収量と最下着莢高
 注) 1. 棒グラフはフクユタカ収量比、折れ線グラフは最下着莢高を示す。
 2. 平成12~13年度の成績で示した。
 3. 最下着莢高は主茎第1節からの高さ。筑後分場は最下着莢節位高。

[その他]

研究課題名: 新たな米生産調整拡大に対応した水田転作大豆の高生産技術
 予算区分: 国庫(地域基幹)
 研究期間: 平成13年度(平成11~13年)
 研究担当者: 内川修、田中浩平、川村富輝

